

クライミングホールド使用上の警告と注意事項

※使用前に必ずお読みください

【製品の性質上、破損や回転による重大事故発生の可能性があることを認識の上ご使用ください】

クライミングホールドは、その製品の性質上、常に破損や回転の可能性があります、クライミング中にホールドの破損や回転があった場合、クライマーは墜落して障害を負う可能性があり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

ホールド破損の場合は、ホールドそのものや破片などが、クライマーだけではなく、ビレイヤーやその他の人に衝突し、障害を負わせる可能性があります、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

ホールドの所有者（管理者）および使用者は、このことを前提に、万が一の破損や回転が起きた場合でも、それが直接の事故に結びつかぬよう、最大限の安全対策を施した上でご使用ください。

具体的には、ホールドの使用者は、ボルダリングの場合はマットを必ず使用し、リードクライミングの場合はすべてのプロテクションにクリップし、トプロープの場合はロープを適切に操作してください。

ホールドの所有者（管理者）は、ホールドの使用者に前記のことを遵守するよう注意を促すとともに、下記の定期的なチェックを欠かさないでください。

また、クライミングホールド以外の目的で使用しないでください。

【破損や回転、または怪我をさけるために定期的な以下のチェックをしてください】

1. ボルトのゆるみによってホールドが回転することがないように、チェックと必要に応じて増し締めや回転防止のビス打ちをしてください
2. インパクトドライバーなどの強いトルクでボルトを締めると、ホールドが割れたり、ヒビが入ったりすることがあります。また、ホールドの底面が接する壁が繊維強化プラスチック（FRP）など、壁の表面に凹凸がある場合、ホールドとの接地面に均一な力がかからないため割れる可能性があるため、締め過ぎないように注意してください。特に薄いもの、小さいホールドなどはレンチで手締めすることを強くお勧めします。
3. 使用が少なくても、季節の変わり目には主に温度と湿度によりボルトやビスがゆるむ可能性がありますので、定期的なボルトやビスの増し締めをしてください。
4. ヒビが入ったホールド、割れたホールドがないか定期的にチェックするとともに、そのようなホールドがあった場合は、絶対に使用しないでください。
5. ボルトの締めすぎ、ホールドの劣化、不当な扱いなどによって、ホールドにひびが入ったり、割れる可能性があります。
6. ホールドはボルトで固定し、さらにビス止め穴のあるホールドは必ずすべての穴をビス止めしてください。
7. ビス止め穴ガイド（小さなくぼみ）がついているホールドは、そこに鉄鋼ドリルまたはコンクリートドリルなど（4～5mm）で穴を開け、ビス止めすることで回転を防ぐことができます。
8. ビス止め（スクリューオンやボリューム）ホールドの固定の場合は全てのビス穴をビス止めしてください。
9. ダイナミックで危険なムーブは、ホールドや壁の破損だけでなく、ケガにもつながります。課題を設定する際は安全に十分配慮してください。